

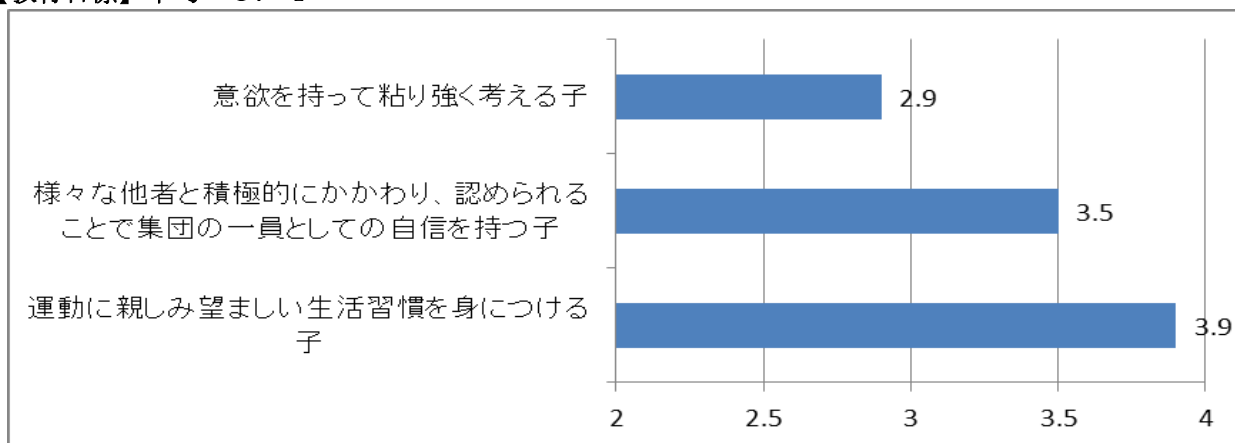
平成30年度 学校評価（自己評価）結果について

布施学校組合立布施小学校

* 4段階で評価を実施

4：達成されている 3：ほぼ達成されている 2：あまり達成されていない 1：達成されていない

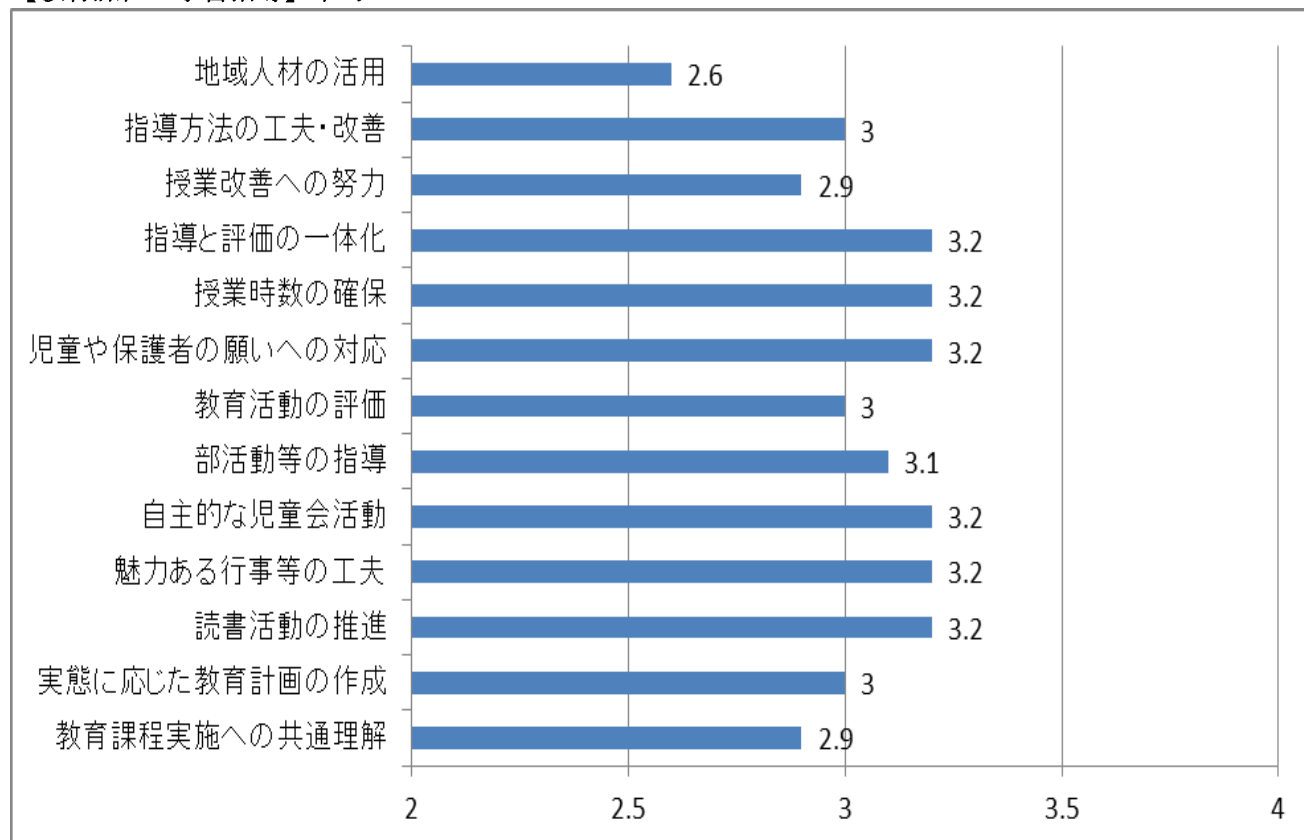
【教育目標】平均 3.4



【教育目標】に対する自己評価では、対象とする教職員が昨年度と異なるため、比較することはできないが、3つの質問項目で昨年度より向上が見られた。昨年度から引き続き行っている実行委員会を中心とした行事における計画実施や、異年齢集団の活動が成果となって表れているものと判断した。昨年度の課題であった学級での取り組みも少しずつではあるが、自己有用感が育ってきているものとする。

「意欲を持って粘り強く考える子」の質問には、数値としての変化は見られないが、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、これまで以上に児童を主体とした授業づくりを心がけていくことが必要不可欠である。全職員が自己研鑽を積み、「意欲的な授業」「わかる授業」の実現に努めていきたい。

【教育課程・学習指導】平均 3.1

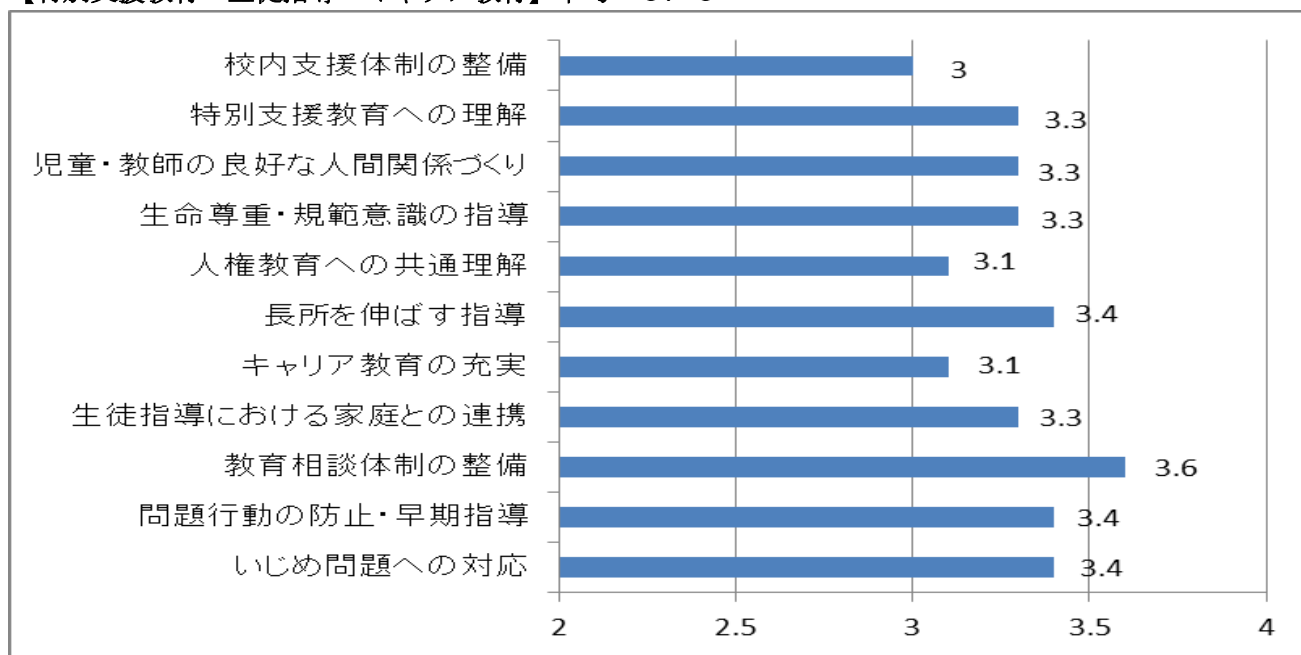


【教育課程・学習指導】については、多くの質問項目で昨年より向上が見られた。特に昨年度課題であった「読書活動の推進」では0.5ポイント「指導方法の工夫・改善」では0.4ポイント「教育活動の評価」「教育課程実施への共通理解」で、それぞれ0.2ポイントの向上が見られた。昨年度の課題を意識して、授業や指導法の工夫・改善など、毎時間の授業のあり方や学習に対する動機付けの工夫など、子供達の知的好奇心を生かした授業実践を行った結果であると考え。

読書活動に関しては、地域の方が中心となって活動してくださっている、学校図書館ボランティア・読み聞かせ等の図書館環境の充実と、児童の図書委員会が取り組んでいる雨天時の読み聞かせなど、様々な条件が0.5ポイントの向上につながったものと思われる。

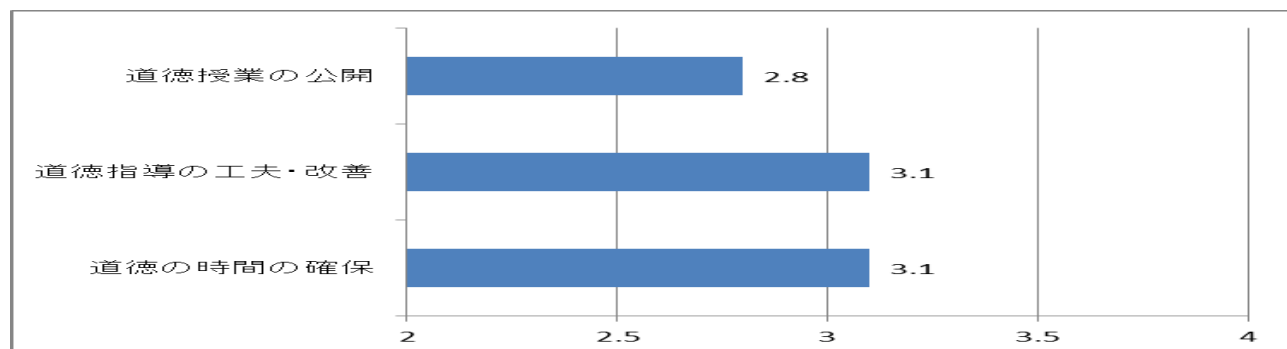
しかし「地域の人材活用」の項目では、昨年度より0.4ポイント下回った。地域の方の協力体制や、布施小学校をよりよくしようとしてくださることに対して、教材開発人材活用など授業改善に努めようとしていかななくてはならない。来年度の年間指導計画立案の際に工夫していく必要があると考える。

【特別支援教育・生徒指導・キャリア教育】平均 3.3



【特別支援教育・生徒指導・キャリア教育】では、指導面は、ほぼ昨年同様の結果が見られた。「キャリア教育の充実」および「いじめ問題への対応」は、共に0.3ポイントずつ向上した。学年にあったキャリア教育を推進したこと、「いじめは絶対に許さない」「早期発見、早期対応」で全教職員が、学年を問わず49名一人ひとりの児童に対して、小さな変化も見逃さないという心構えのもとで、校教育目標実現に向けて昨年から引き続き、児童相互が認め合うことのできる雰囲気づくりに努めたりよさを見つけあう活動を設定したりしてきたことが窺える。今後も、自己有用感を高め、『学校大好き』と思えるように努めていきたい。

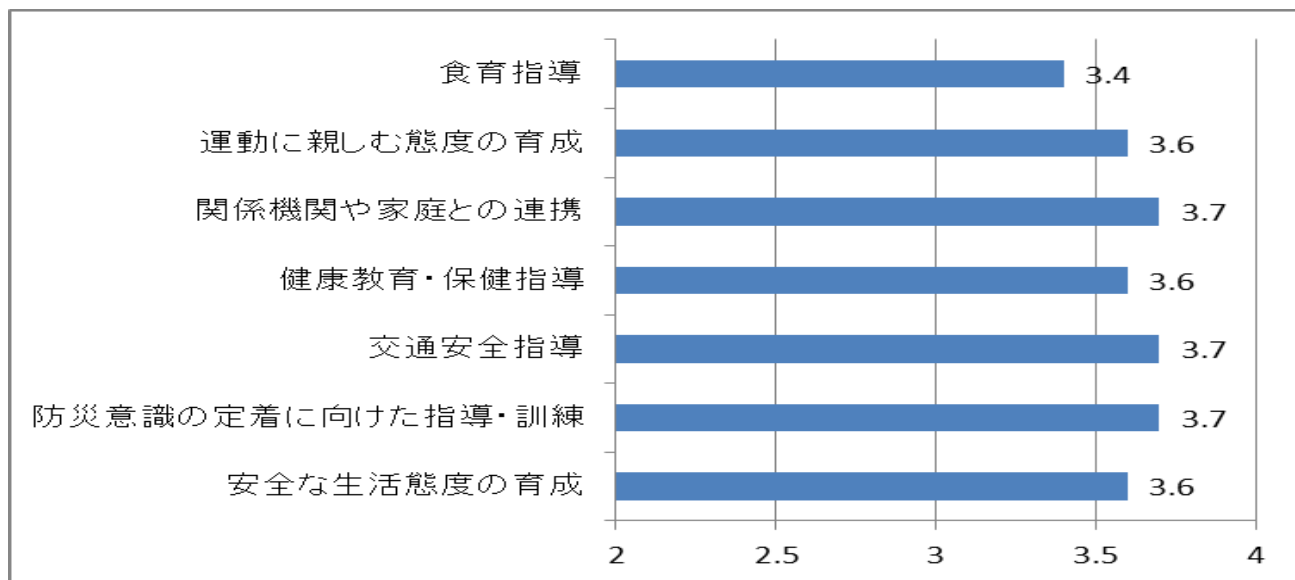
【道徳】平均 3.0



【道徳】に関しては、今年度から「特別な教科 道徳」として完全実施しており、千葉県はもちろん本校でも、全教育課程をとおして指導するとともに、相互授業参観を行ったり、授業公開を行ったりしている。

そのためか、昨年度の結果より「道徳指導の工夫・改善」についてはわずかではあるが0.1ポイント向上した。本校では学校長自ら道徳の授業を行い、学習指導要領で求められている「考え議論する」道徳のありかたについて担任が理解を深め、指導技術の向上に努めている。公開のポイントが減少したが、校内に道徳指導のエキスパートがいるため、残りの授業では、より高い指導力をつけるため、さらに研修を深めていく必要があると考える。

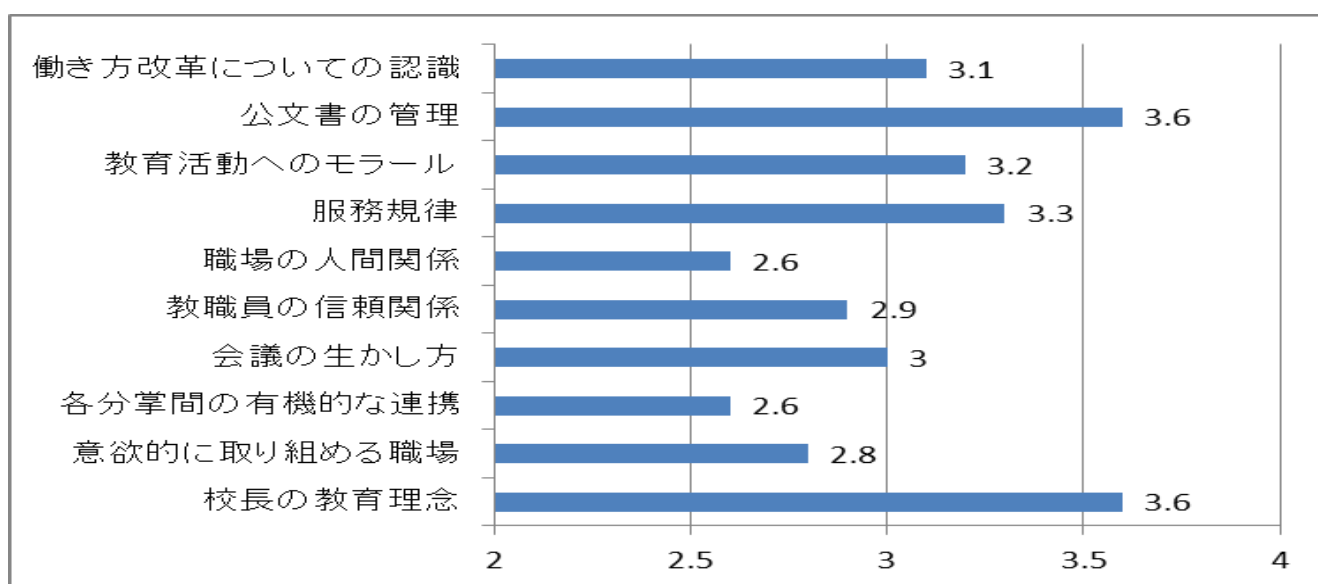
【体育・保健・安全】平均 3.6



「体育・保健・安全」では、全ての項目において昨年より向上が見られた。特に「運動に親しむ態度の育成」が0.5ポイント向上したのは、昨年度から引き続き行われている、週2回のロング昼休みで、遊びの時間の確保に努めた結果と考える。また、「防災意識の定着に向けた指導・訓練」では0.6ポイントという著しい向上が見られた。引渡し訓練、消火器訓練、ワンポイント訓練など多岐にわたる避難訓練を継続的な実施が、児童の防災意識の定着に結びついたものと判断する。さらに、昨年度同様に、学校保健委員会の開催や児童のむし歯予防への取り組み強化、給食センター栄養士と連携しての食育指導を行ってきた。

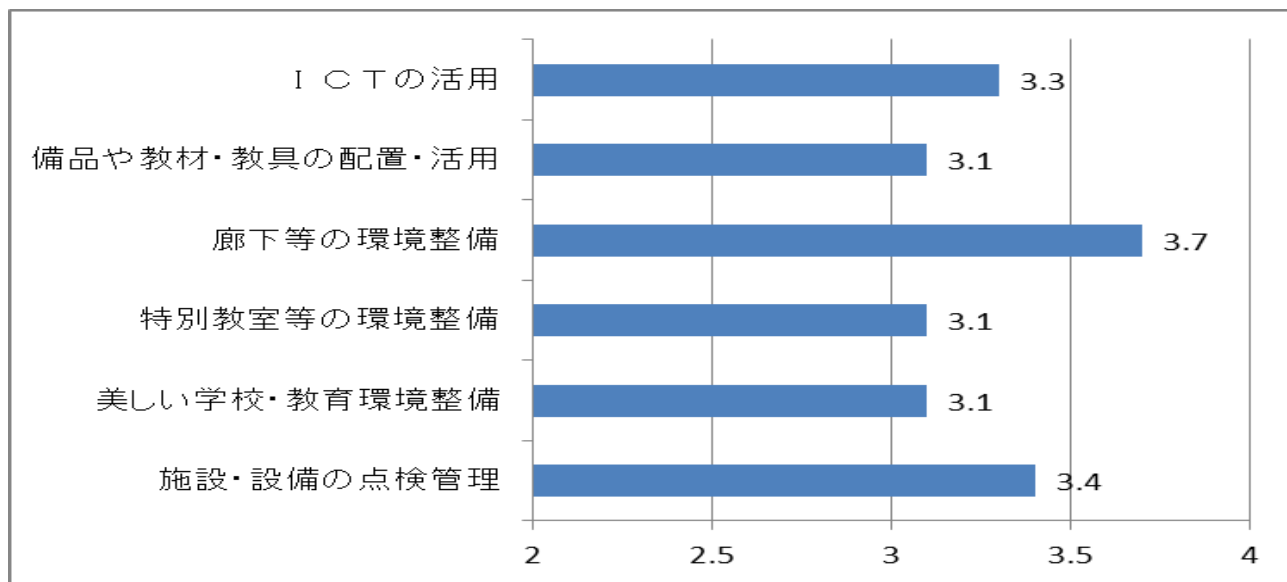
今後も、保護者やSST、警察署や消防署、学校給食センター等の関係機関と連携しながら、健康で安全な生活を実践しようとする態度の育成に努めていきたい。

【経営組織】平均 3.1



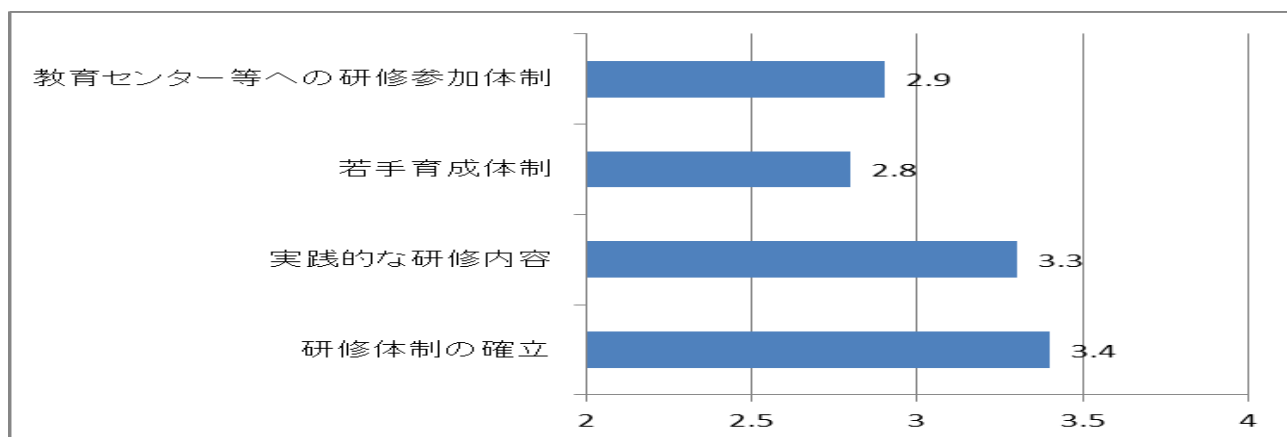
【経営組織】では、今年度「働き方改革」の項目を新たに加えた。ワークライフバランスが叫ばれる今日、勤務時間の適正管理を含め、モチベーションを高く持ち、子どもに接することは重要であるが、人数の少ない中で教職員個々の特性を生かし、学校を活性化させていくには、いくつかの課題も見られる。「職場の人間関係」や「各分掌間の有機的な連携」など、校長の高いリーダーシップにより、組織として協働態勢で学校全体が子どものために足並みを揃えていきたい。

【施設・設備】平均 3.3



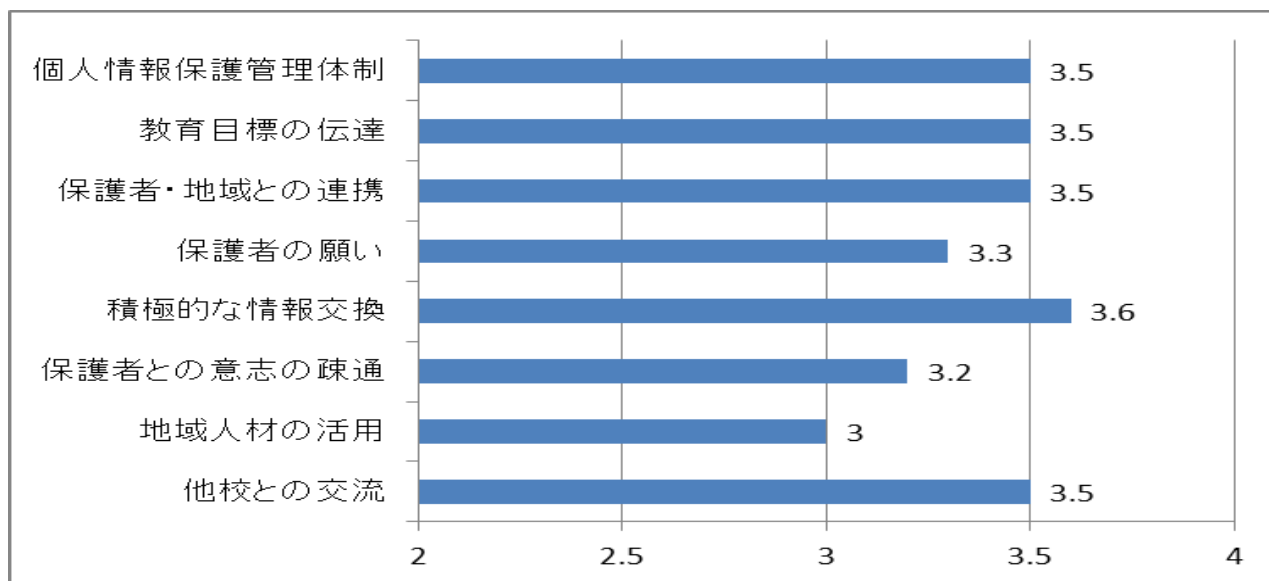
「施設・設備」は、昨年とほぼ同様の結果であった。特に「ICTの活用」では0.3ポイント「廊下等の環境整備」では0.4ポイントの向上が見られた。ICT活用の面では、教師が児童に対して教材として提示するだけでなく、児童自身がパソコンやiPadを利用して学習に取り組んでいる。「廊下等の環境整備」では、常に季節感を考慮したり、児童作品には必ず教師がコメントを入れたりするなどの配慮が見られる。施設や設備は決して新しいものではないが、工夫して環境整備を進めているところである。「人が環境をつくり環境が人をつくる」と言うが、少ない児童数と教職員が一生懸命学校環境を整備している。今後も維持していきたい。

【研修】平均 3.0



【研修】では、「若手育成体系」を除く項目で、昨年より向上した。国語を中心とした研修も2年目になり全担任が授業研究に取り組み、指導主事を招聘して指導を仰ぐなど、毎時間の授業のあり方や学習中の交流活動の工夫などを学んだ。研究授業時間限りの深い研究だけでなく、毎時間の継続を行うことで子供達の知的好奇心を生かした授業実践を行っていきけるよう更に研修を深めていく必要がある。

【開かれた学校】平均 3.4



【開かれた学校】については、昨年と比較すると残念ながら「保護者・地域との連携」で、0.1ポイント「保護者との意思の疎通」で、0.2ポイント「地域人材の活用」で、0.6ポイントと下回った。布施は言うまでもなく、素晴らしい環境や人材に恵まれた地域である。新学習指導要領の趣旨を生かした教育活動を展開する上でも、今年度以上に力を入れて積極的な活用を図っていく必要がある。他校との交流については、昨年度同様御宿小学校や保育所と積極的に交流してきた。特に保育所との交流は、低学年児童にとっても自己有用感を高める上で効果的であり、次年度も継続していきたい。また、少人数の布施小学校だからこそ、今後も保護者の願いを受け止め、保護者・地域の方々との情報交換や意思の疎通を図りながら、教育活動を行っていきたい。

【来年度への要望等】

- ・行事については、この学校の規模に合うように選別する必要があると思う。
- ・来年度は職員減になることも考慮して、学校行事の精選をする方向にしていきたい。
- ・行事の精選をお願いしたい。
- ・布施祭りの内容の精選について考えたい。
- ・夏の教育課程への参加は偏りを出さないように校内で順番に回して方がよい。
- ・教育全体にかかわることは全体の前で話し、共通理解をしてもらいたい。
- ・年間指導計画が変わるのであれば体育だけでなく音楽も隣接学年でできるようにしたらどうか。
- ・何とはとか言えないが昨年に準じて提案等がなくやっていることも多いので、どうしても共通理解で漏れ落ちが出てしまうと感じる。
- ・1, 2年生がダンスで参加することなど、音楽会への参加について考えたい。